

令和 7 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立佃西小学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は妥当である。調査やアンケートの結果も目標を達成しているものもあれば、下回っているものもあった。達成できなかった分については、今後数値が向上するように取り組むとともに、上回っている項目に関しては、継続していく。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：安全・安心な教育の推進

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85%以上にする。
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
- ・学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、必要な対応をした割合を 100%にする。
 - ・不登校について、関係諸機関と連携しながら組織的に対応し、心の居場所づくりや安心して通学できる学級づくりなど、不登校児童に対するきめ細かな対応に努める。

評価は妥当である。不登校については、多くの教員や関係諸機関とこれまで以上に連携する必要がある、チームで対応できるようにする。

年度目標：未来を切り拓く学力・体力の向上

- ・経年調査における、国語の平均正当率の対全国比をいずれの学年も同一母集団において経年的に比較し前年度より 0.02 ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」（昨年度 36.3%）に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 37%以上にする。
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 70%以上にする。（昨年度 69.6%）
- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、「1 週間の総運動時間」が 60 分未満の児童の割合を 15%以下にする。

評価は妥当である。経年調査の標準化得点は昨年度よりも向上した学年も多く、今後も質の高い授業を展開していく。運動に対する習慣について学校だけではなく、家庭でも考えていく必要がある。引き続き楽しい体育科の授業、学年や学級の遊びを実践していく必要がある。

年度目標：学びを支える教育環境の充実

【ICTの活用に関する目標】

- ・授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 60%以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）

【教職員の働き方改革に関する目標】

- ・教員の時間外勤務月 45 時間・年 360 時間を超える教職員を 0 にする。
（昨年度 基準 1 60.5% 基準 2 97.4%）

・本市調査における、「学校図書館貸出冊数（児童 1 人当たりの年間貸出冊数）」を 36 冊以上に
する。

評価は妥当である。ICT 機器の活用については、実践できているので、今後も継続していく。働き方改革については、少しずつ見直しが進んでいるので、さらに進めていく。

3 今後の学校園の運営についての意見

・現在できていることは引き続き継続して取り組んでいく。課題となった点については、ちがったアプローチを試みて、解決できるように取り組む。

・統合の可能性もあるので、その点も意識しながら近隣小学校と連携しながら教育活動を進めていく。